



自治活動

自治連絡協議会



春の恒例行事となった全町クリーン作戦

戦前以来の中央集権的な官僚体制が解体され、地方住民に関係する行政機能は大幅に地方自治体に移されるなど戦後大改革が行われました。その中で、GHQは日本の民主化を急ぐあまりか、神経質になりすぎたのか、ともかく従来の町内会や部落会を上から命名された翼賛体制の組織であるとして廃止を打ち出してきました。しかし、「遠くの親類より近くの他人」のたとえどおり、冠婚葬祭や日常の交際、あるいは村の広報伝達機関として、町内会の存在価値は高く、そのため行政の補助機関として駐在区と名称を変え、実際は町内会が存続してきました。

駐在区をまとめる団体としては、清掃組合など目的別によって昭和24年ごろから組織されていましたが、秋田地区においては戦後も引き続き連合会を存続させていました。昭和27年ごろより他地区においても団体としての必要性から結成が検討され、勝山中里地区開発促進期成会、東部地区開発期成会、置戸中央連絡委員会ができて、こうし

た機関を通して道路・橋梁の改良、生活環境や学校環境整備等の陳情が行われるようになりました。

その後、置戸市街駐在員連絡協議会、置戸地区連合会等も組織され、毎年度実施される理事者や町議会議員の町内行政視察には、これらの機関がまとめ役を果たしました。

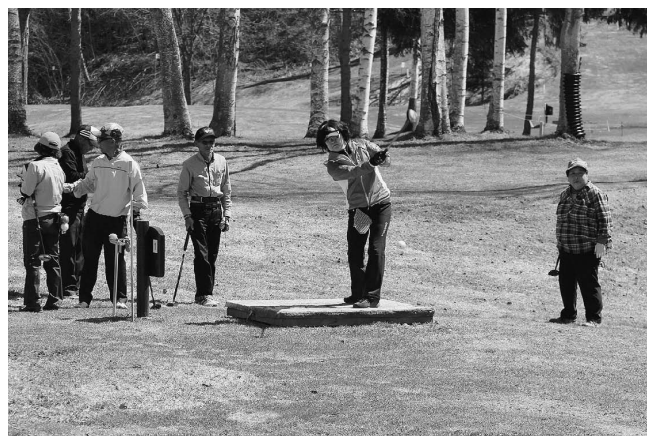
昭和44年4月、町婦人団体連絡協議会の提唱する虚礼廃止運動の普及推進を目的に、青木淳（勝山）、岡島義男（置戸）、砂田喜八郎（境野）、小野垣一郎（秋田）の地区会長が集まり、四地区連合会を発足。そして、昭和48年に住民自治組織である勝山、置戸、境野、秋田の連合体をもって置戸町自治連絡協議会が結成されました。

昭和53年に町民憲章が制定されてからは、同推進大会の実質的な母体となって活動を進めているほか、全町クリーン作戦の実行、各自治会の要望等取りまとめなど、今日まで住民自治活動の推進に努めています。

（参照『置戸町史下巻』 ※文中人名敬称略）

待望のナイスショット

おけとパークゴルフ場がオープン



おけとパークゴルフ場が4月29日、今季の営業を始めました。早速、熱心な愛好者らがラウンドし、芝の感触を確かめていました。

初日は午前8時の開場と同時に続々と愛好者らが訪れ、春の日差しをいっぱい浴びながらプレーを開始。平坦に見えても、所々に微かな起伏があり、プレーヤーはショットの行方に一喜一憂していました。

今季は雪解けの遅れでスタートが心配されましたが、大型連休序盤に営業を開始。関係者は「何とか間に合いました」と笑顔で話していました。

料金は1日300円。営業時間は午前8時～午後5時。11月上旬のクローズまで無休。

問い合わせは同パークゴルフ場センターハウス（☎52-3084）、または教育委員会社会教育課（中央公民館内☎52-3075）へ。